

よび異常ゲル濾過溶出形成を示した von Willebrand 病, 第21回日本臨床血液学会総会, 1979. 10, 札幌.

17) 桜川信男: OK-432 (ピシバニール) の凝固系に及ぼす作用, 第21回日本臨床血液学会, 1979.10, 札幌.

18) 桜川信男: β -thromboglobulin 測定と Platelet factor 4 との関連, 第26回日本臨床病理学会, 1979. 10, 東京.

19) 桜川信男: Active prothrombin complex (FEI BA) の凝血学的検討, 第2 回日本血栓, 止血学会, 1979. 12, 神戸.

20) Sakuragawa N.,: Studies on coagulation fibrinolytic activity of the Snake Venoms. 7th International Congress on Thrombosis and Haemostasis, 1979, 9, London.

4) 中丸勝人, 久世照五, 伊藤祐輔: 病院開院に先立ってのセントラルバイピングの点検, 第27回日本麻酔学会北陸地方会, 1979. 12, 金沢.

5) 樋口昭子, 中丸勝人, 中西拓郎, 久世照五, 伊藤祐輔: 本学手術部における余剰麻酔ガス排除装置の検討, 第27回日本麻酔学会 北陸地方会, 1979. 12, 金沢.

6) 増田 明, 中西拓郎, 田辺隆一, 海木玄郷, 佐藤祐次, 久世照五, 伊藤祐輔, 樋口昭子: 高度低栄養に伴った心不全患者の術後管理の1例, 第27回日本麻酔学会北陸地方会, 1979. 12, 金沢.

7) 海木玄郷, 増田 明, 佐藤祐次, 久世照五, 伊藤祐輔, 樋口昭子: モルフィン及びペンタゾシンの硬膜外注入の経験, 第27回日本麻酔学会北陸地方会, 1979. 12, 金沢.

手 術 部 和 漢 診 療 室

部 長(併任) 伊 藤 祐 輔
助 教 授 遠 藤 俊 郎
助 手 樋 口 昭 子
文部技官 中 丸 勝 人

講 師 寺 澤 捷 年
助 手 土 佐 寛 順

◆ 研究概要

生活環境としての手術室に関する研究:

手術という人為的外力によって患者の病態を治癒せしめようとする手術室の目的遂行のために, 手術室には無菌(清潔), 無痛(麻酔), 及び安全性の確保の各要素が強く要求される特殊な生活環境である。手術部内の清潔度を高めこれを維持すること, 麻酔余剰ガスの有効な排除方法の開発, 酸素・笑気・窒素など高圧ガスの配管管理等の研究を行い, この特殊環境で働く外科医, 麻酔医, 看護婦及び手術部スタッフの健康管理に資することを目標としている。

◆ 学会報告

1) 樋口昭子, 村木 進, 増田 明, 市川高夫, 松木美智子: プロリターゼ欠損症の麻酔経験, 第19回日本麻酔学会 関東・甲信越地方会, 1979. 11, 東京.

2) 丸山正則, 樋口昭子, 松木美智子, 羽柴正夫: Venous outflow 法による脳血流量測定法の問題点—H₂ Clearance 法との比較—, 第19回日本麻酔学会 関東・甲信越地方会, 1979. 11, 東京.

3) 内藤笑美子, 栗林秀樹, 樋口昭子, 田野雅美, 下地恒毅: 脳エネルギー代謝及び環状ヌクレオチドに及ぼす低体温の影響, 第19回日本麻酔学会 関東甲信越地方会, 1979. 11, 東京.

◆ 研究概要

本室は中国および日本に発達した伝統医学である和漢薬を用いた治療体系(いわゆる漢方)の臨床効果, 作用機序等を科学的に研究しようとするわが国で初の臨床研究機関である。

研究課題の第1点は, 現代医学で難治とされている疾患あるいは病態にどれほどの応用価値があるかを検討することで, 各診療科の専門家と協同して臨床研究を推進する。

第二点は, 漢方治療に用いられる薬物(天産物およびその中の有効成分)の臨床効果の検定である。この研究は主として本学の和漢薬研究所との連繋のもとに今後展開されていくものである。

第三点は, いわゆる漢方医学の独特の診断法, 病理観の現代科学的解明であり, その妥当性の有無について検討を加え, 和漢薬の臨床応用をより安全で確実なものにして行く努力である。この面での研究は中央検査部, 薬剤部と協同して作業を進める。

本学の建学の理念は医学ならびに薬学の協調の上に共同研究教育体制を確立することにあるが, 本室が建学の理念を具体的に遂行する特色ある臨床研究機関として育ちたいと考えている。

◆ 原 著

Terasawa K., Otani K. and Yamada J.: Descending Pathways of the Nucleus of the Optic Tract in the Rat. Brain Research 173: 405-417, 1979.

◆ 学会報告

寺澤捷年：常習頭痛の東洋医学的研究，日本東洋医学会第30回総会，1979. 5，東京。

薬 劑 部

教 授 堀 越 勇
助 教 授 上 野 雅 晴
助 手 妻 木 葉 子

◆ 研究概要

- 1) 粉粒体圧縮過程のレオロジー解析。
- 2) 医薬品分子間化合物の熱的解析。
- 3) セミプロトン溶媒中の有機塩基の構造解析。
- 4) 粉末医薬品中の水分の誘電特性。
- 5) リボゾームの製造とその薬剤効率の評価。
- 6) 血小板と薬物の相互作用。
- 7) 生物学的製剤の評価，とくに活性値，定量法，賦形薬による安定性の差異について。
- 8) 和漢薬による治療効果とHLC成分パターンの相関分析。
- 9) 患者に投与した薬物の血中濃度測定とその動力学的解析。
- 10) 熱力学的手法およびNMR測定による界面活性物質の溶液物性と構造の解析。
- 11) 分光学的手法によるイオノフォアのイオン選択機構および膜中での存在状態の解明。

◆ 原 著

- 1) Takeguchi N., Hattori M., Sano A. and Horikoshi I.: Intracellular potassium ion in relation to acid secretory rate by frog gastric mucosa. *Am. J. Physiol.* **237**: E51—E55, 1979.
- 2) 堀越 勇，森井孫俊，中林 晋，竹口紀見，木村昌行：打錠工程における薬剤の粘塑性挙動，薬学雑誌 **99**(4): 325—328, 1979.
- 3) Ueno M. and Kyogoku Y.: Conformational Difference in Cation Complexes of Tetranactin in Solution. *Biopolymers* **18**(11): 2645—2657, 1979.
- 4) Ueno M. and Kishimoto H.: Complex Formation Enthalpy of Tetranactin with Alkali Ions in Methanol. *Chem. Lett.* 1979: 1487—1490, 1979.

◆ 学会報告

- 1) 吉松清信，大垣順子，堀越 勇：局方塩化ベルベリン中の水分の吸脱着に関する誘電的研究，第3回製剤の安定化とその評価法シンポジウム，1979. 11，名古屋。
- 2) 清水正樹，上野雅晴，岸本 博：イソオクタ

ン相およびイソオクタン/水・界面における高級アルコールの状態，日本薬学会第99年会，1979. 8，札幌。

3) 竹内公人，上野雅晴，岸本 博：非水溶媒中における Aerosol 系界面活性剤ミセルの多分散性，日本薬学会第99年会，1979. 8，札幌。

4) 上野雅晴，岸本 博：NMRによる Aerosol 系界面活性剤溶液の研究，第32回コロイドおよび界面化学討論会，1979. 10，高知。

5) 西村嘉博，竹口紀見，堀越 勇：胃粘膜における塩酸分泌とアルカリ分泌，第17回生物物理学会，1979. 10，名古屋。